

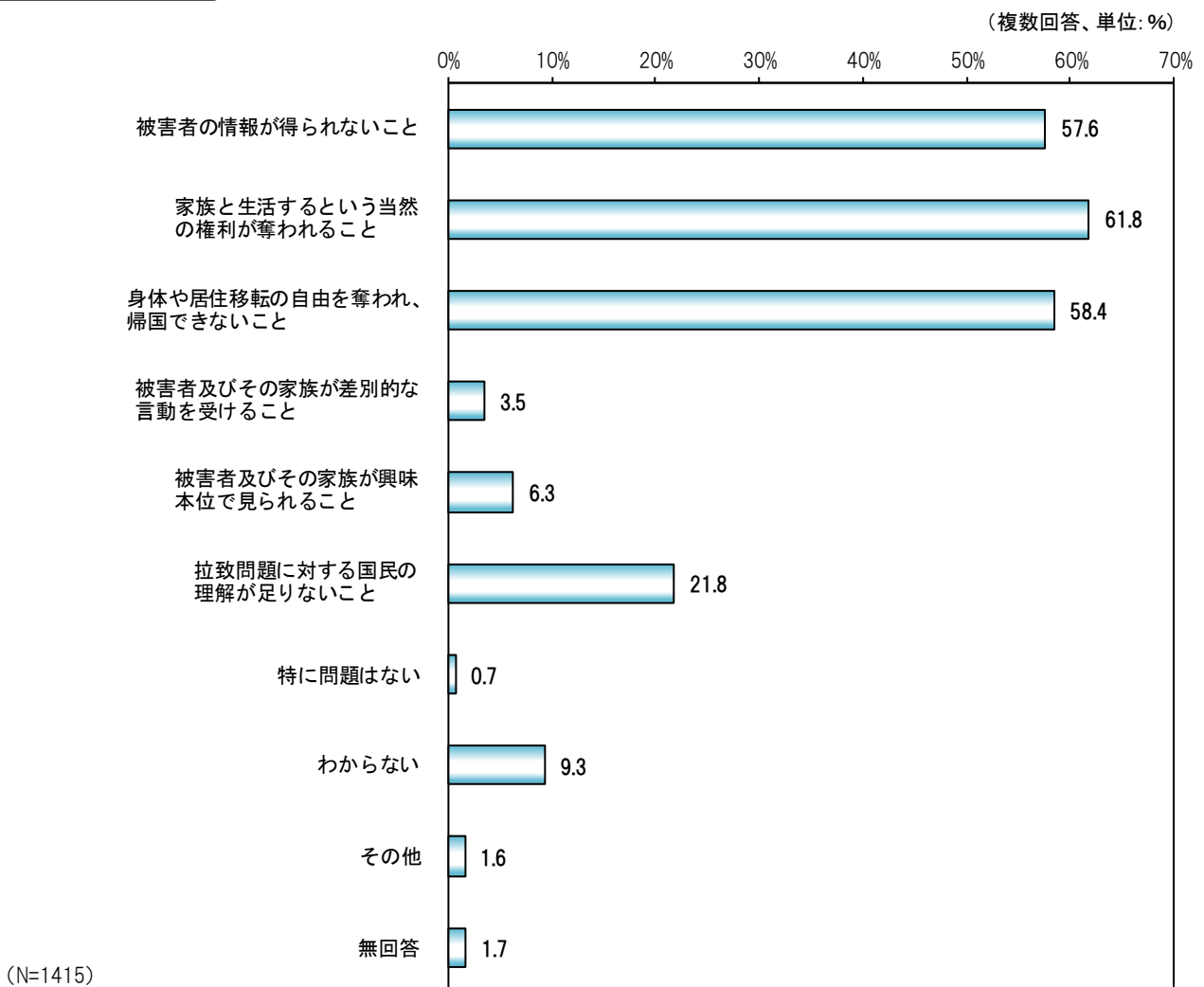
17. 拉致問題について

問38 拉致問題に関する人権上の問題点

あなたは、北朝鮮当局による日本人拉致問題について、特にどのようなことが問題だと思えますか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

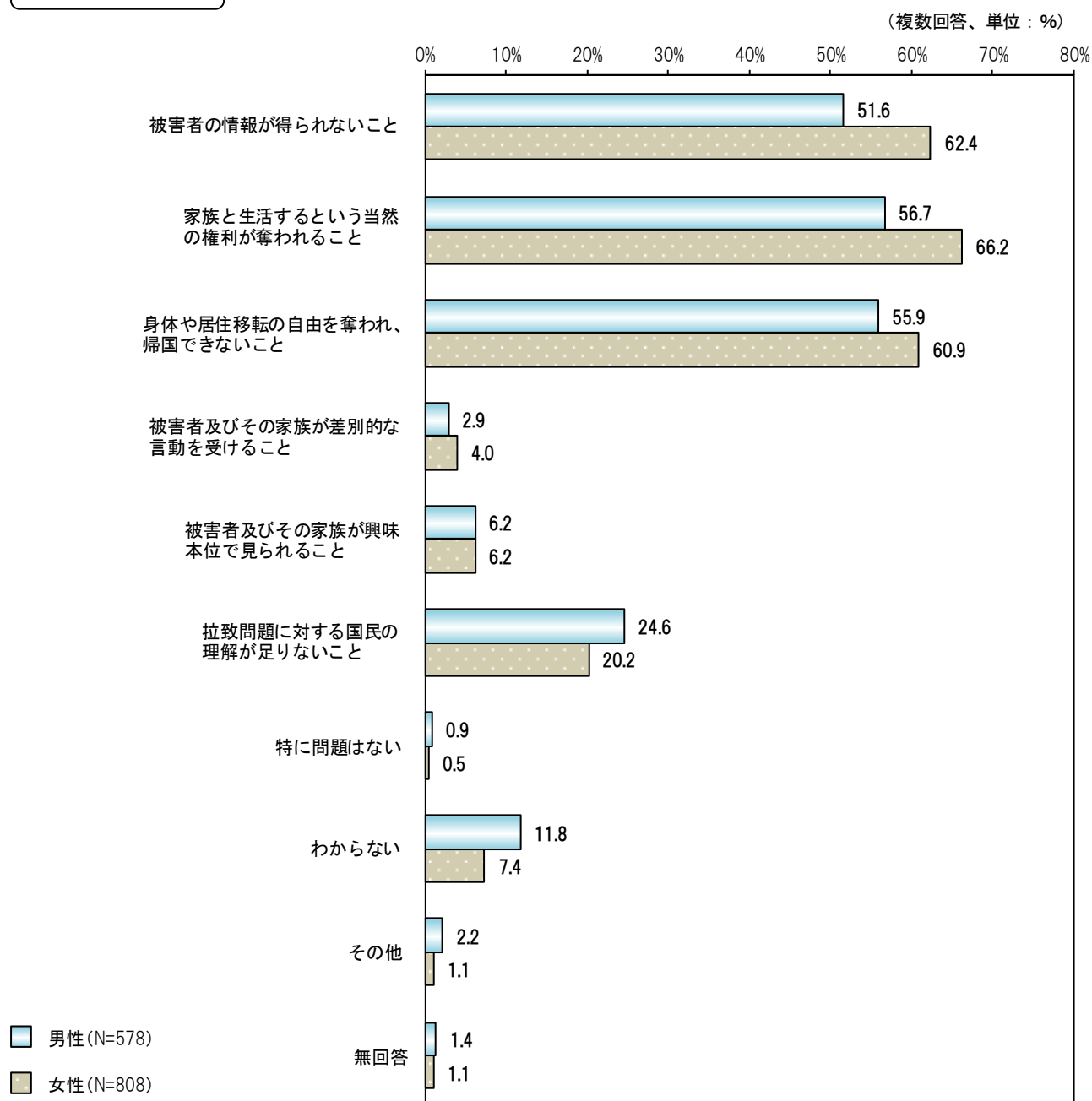
1. 被害者の情報が得られないこと
2. 家族と生活するという当然の権利が奪われること
3. 身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと
4. 被害者及びその家族が差別的な言動を受けること
5. 被害者及びその家族が興味本位で見られること
6. 拉致問題に対する国民の理解が足りないこと
7. 特に問題はない
8. わからない
9. その他 ()

全体集計



「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が61.8%と最も高く、次いで「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」が58.4%、「被害者の情報が得られないこと」が57.6%となっている。

性別集計

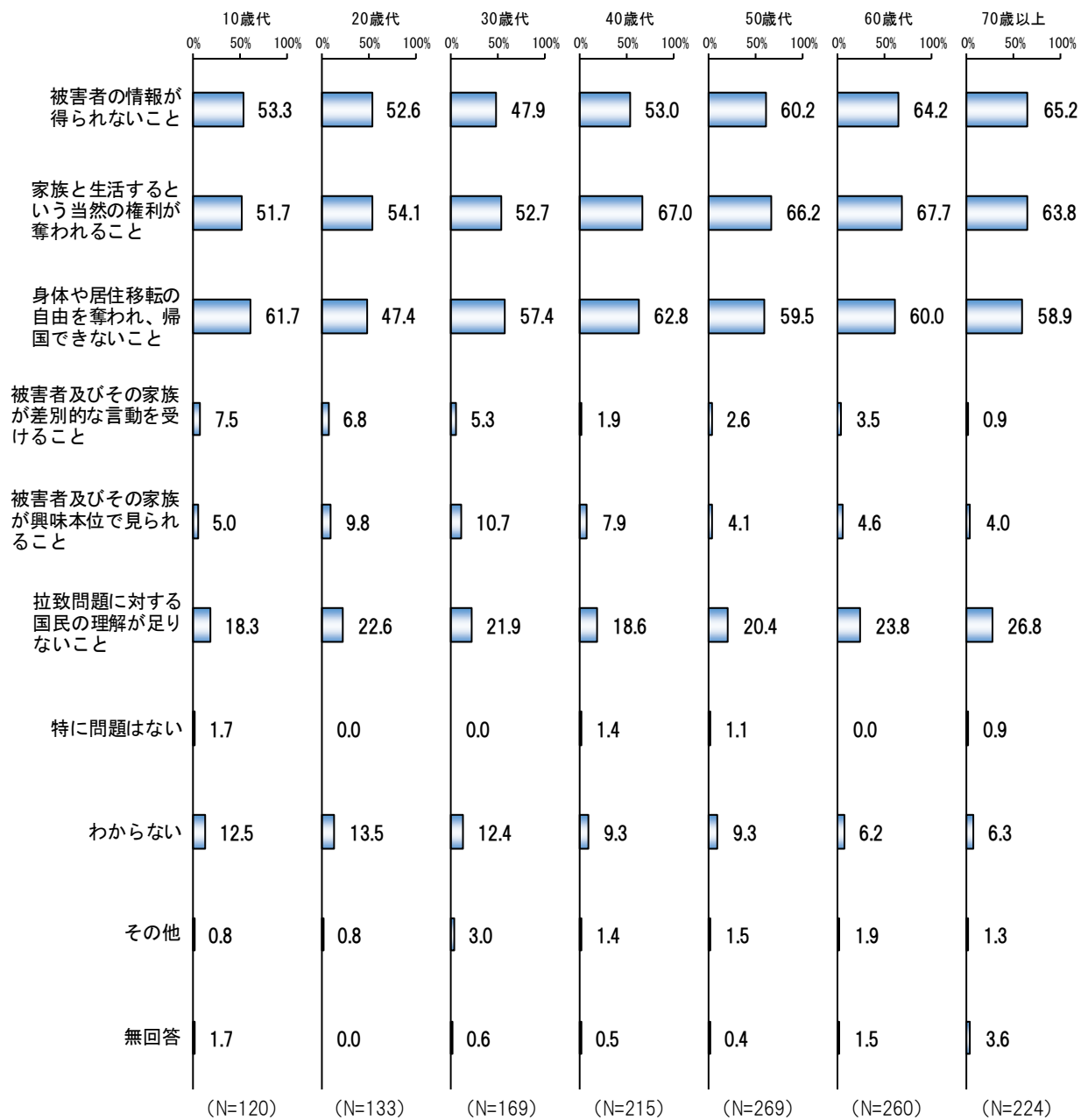


性別でみると、男女ともに「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が最も高く、第2位は男性が「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」、女性が「被害者の情報が得られないこと」、第3位は男性が「被害者の情報が得られないこと」、女性が「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」となっている。

「被害者の情報が得られないこと」が最も男女差が大きく、男性（51.6%）よりも女性（62.4%）の方が10.8ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位: %)



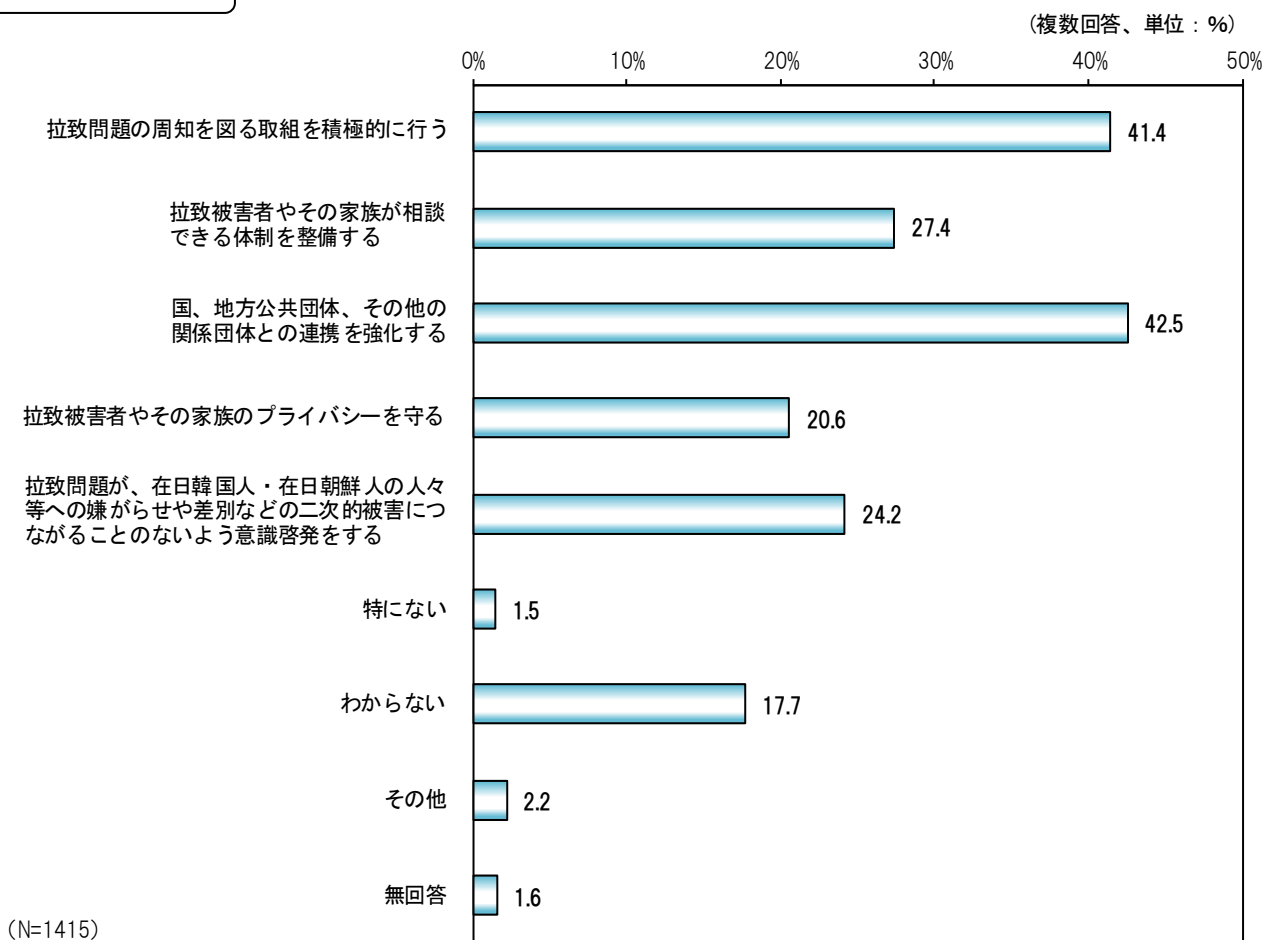
年齢別でみると、10、30歳代は「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」、20、40～60歳代は「家族と生活するという当然の権利が奪われること」、70歳以上は「被害者の情報が得られないこと」の割合が最も高くなっている。

問39 拉致問題について人権を守るために必要なこと

あなたは、拉致問題について、人権上特にどのようなことが必要だと思いますか。
次の中から選んでください。(〇は3つまで)

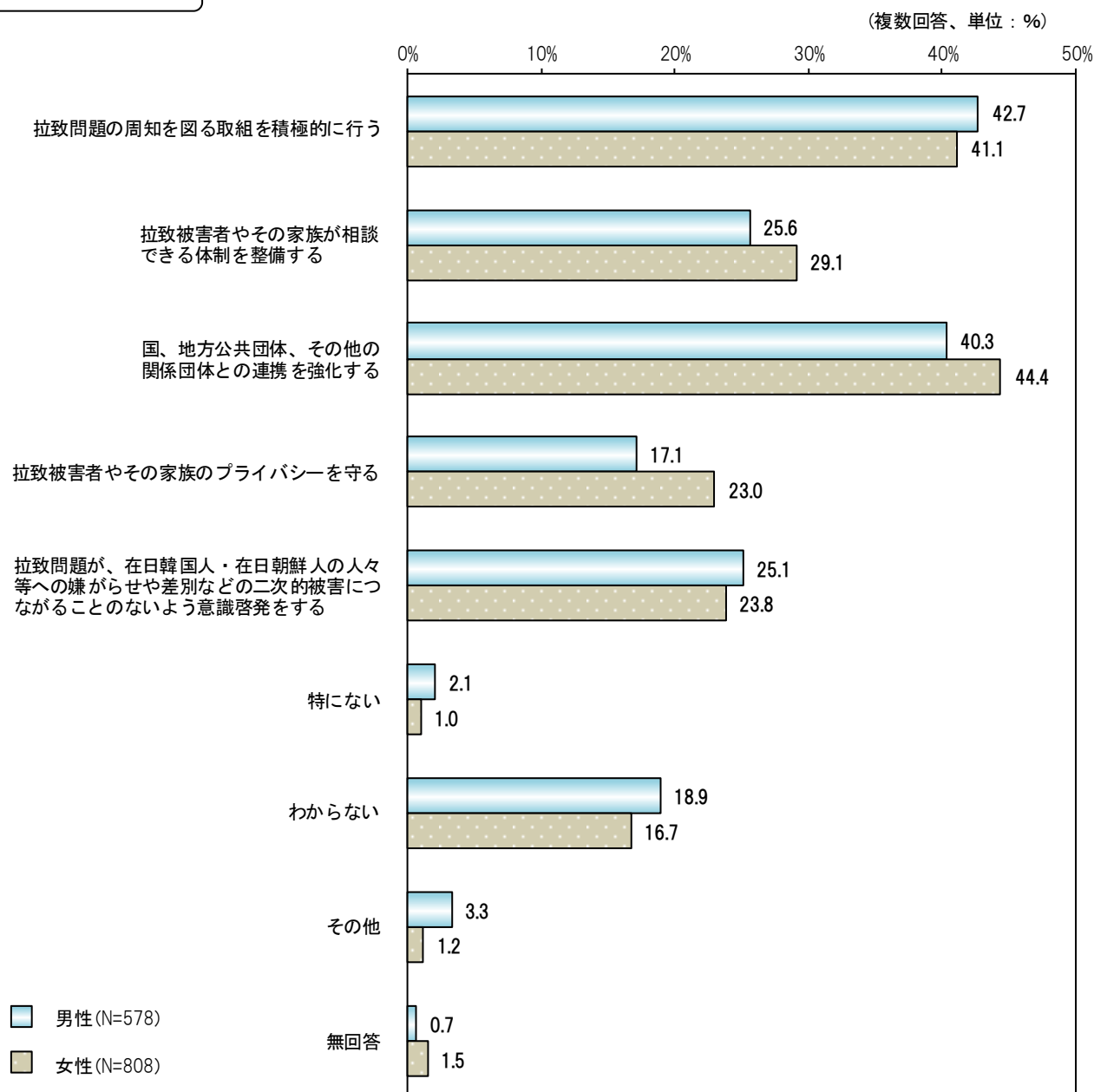
1. 拉致問題の周知を図る取組を積極的に行う
2. 拉致被害者やその家族が相談できる体制を整備する
3. 国、地方公共団体、その他の関係団体との連携を強化する
4. 拉致被害者やその家族のプライバシーを守る
5. 拉致問題が、在日韓国人・在日朝鮮人の人々等への嫌がらせや差別などの二次的被害につながる
ことのないよう意識啓発をする
6. 特にない
7. わからない
8. その他 ()

全体集計



「国、地方公共団体、その他の関係団体との連携を強化する」の割合が42.5%と最も高く、次いで「拉致問題の周知を図る取組を積極的に行う」が41.4%、「拉致被害者やその家族が相談できる体制を整備する」が27.4%となっている。

性別集計

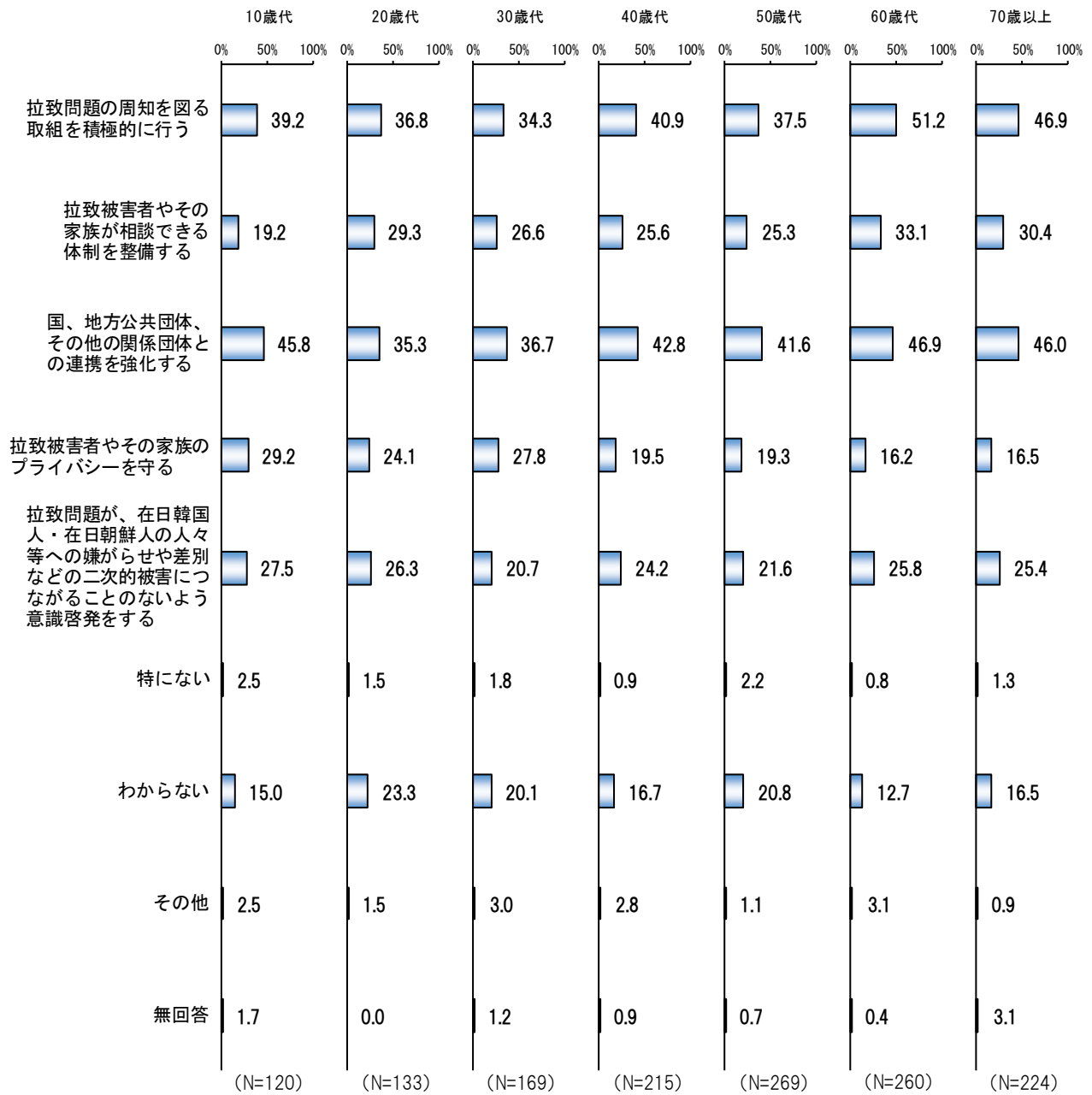


性別で見ると、男性は「拉致問題の周知を図る取組を積極的に行う」、女性は「国、地方公共団体、その他の関係団体との連携を強化する」の割合が最も高く、第2位は男性が「国、地方公共団体、その他の関係団体との連携を強化する」、女性が「拉致問題の周知を図る取組を積極的に行う」、第3位は男女とも「拉致被害者やその家族が相談できる体制を整備する」となっている。

「拉致被害者やその家族のプライバシーを守る」が最も男女差が大きく、男性（17.1%）よりも女性（23.0%）の方が5.9ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位:%)



年齢別でみると、10、30、40、50歳代は「国、地方公共団体、その他の関係団体との連携を強化する」、20歳代、60歳代以上は「拉致問題の周知を図る取組を積極的に行う」の割合が最も高くなっている。